健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

NEWS　RELEASE

平成19年1月30日

日清製粉グループ　第3四半期連結決算、通期連結業績予想

[平成19年3月期第3四半期連結決算]

主に健康食品事業の主力のコエンザイムQ$_{10}$の収益低下により減益

株式会社日清製粉グループ本社（社長　長谷川 浩嗣）の平成１９年３月期第３四半期（平成１８年４月１日から平成１８年１２月３１日まで）につきましては、食品業界は依然として需要の伸び悩みと低価格志向が継続する厳しい環境の中、各事業において積極的な販売促進活動や新製品の上市による市場開拓を進めましたが、健康食品事業において主力のコエンザイムＱ$_{10}$のブームの沈静化と需給バランスの変化により売上げと利益が大幅に減少したことが主因で連結業績は前年を下回りました。

この結果、売上高は３，１６６億３２百万円（前年同期比９９．６％）と減収となりました。利益面でも経常利益は１６８億８４百万円（前年同期比９２．６％）、四半期純利益は８５億３２百万円（前年同期比８６．３％）とそれぞれ減益となりました。

[平成19年3月期通期連結業績予想]

当期は減収減益となるものの、来期以降の業績回復に向けて努力

当社グループにおきましては、健康食品事業の収益低下を主因として減益となった上期業績を底として下期以降の業績回復を目指して、各事業において国内外での出荷伸長とコスト削減を推進してまいりました。しかしながら、コエンザイムＱ$_{10}$の出荷数量の減少と価格の低下が当初の想定を上回る見込みであることと、中食・惣菜事業の改善施策の進捗が遅れていることに加え、小麦粉、ドライ加工食品など主力製品を巡る市場環境も需要、価格両面で厳しい状況になっていることを踏まえて１１月公表の通期業績予想を売上高、利益とも引き下げております。

通期業績予想は、売上高は４，２００億円（前期比９９．７％）と減収の見込みです。利益面では、経常利益は２３１億円（前期比９３．２％）、当期純利益は１２５億円（前期比９２．３％）とそれぞれ減益となる見込みです。

当期の業績は厳しい状況とはなっておりますが、来期以降の業績回復を目指して、中国の新プレミックス工場稼働など海外事業の拡大、東灘製粉工場建設、宇都宮パスタ新ライン稼働など事業基盤確立施策を継続しコスト体質強化を図ってまいります。また、健康食品事業においては消費者向け製品の上市などを積極的に進め、中食・惣菜事業においても工場のオペレーション改革など改善施策を着実に実行してまいります。当期の残ります期間、グループを挙げてこれらの施策に取組み、業績の改善に向けての努力をする所存であります。

以　上